

J-クレジット制度 プロジェクト計画書 （排出削減プロジェクト用）

プロジェクトの名称：

ビニールハウスにおける木質バイオマスボイラー利用による化石燃料の代替

プロジェクト 実施者名	株式会社デ・リーフデ北上
----------------	--------------

妥当性確認申請日 2018年1月10日

プロジェクト登録申請日 2018年3月23日

1 プロジェクト実施者の情報

1.1 プロジェクト実施者（複数のプロジェクト実施者がある場合は代表実施者）

実施者名	(フリガナ) デリーフデキタカミ
	株式会社デ・リーフデ北上
住所	宮城県石巻市北上町橋浦 北釜谷崎 226

1.2 プロジェクト代表実施者以外のプロジェクト実施者 ※1

実施者名	(フリガナ) マイクライメイトジャパンカブシキ ガイシャ
	マイクライメイトジャパン株式会社
住所	〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-4 新川 ニッテイアネックス 5階

※1 複数のプロジェクト実施者が参加する場合には、欄をコピーしてそれぞれのプロジェクト実施者の情報を記載すること。

1.3 J-クレジット保有者 ※1

保有者名	(フリガナ)
住所	

※1 J-クレジット保有者が決まっている場合は記入すること。

※ 以下、複数のプロジェクトをまとめて申請する場合は、2~4の内容を方法論ごと・実施場所ごとに記載すること。

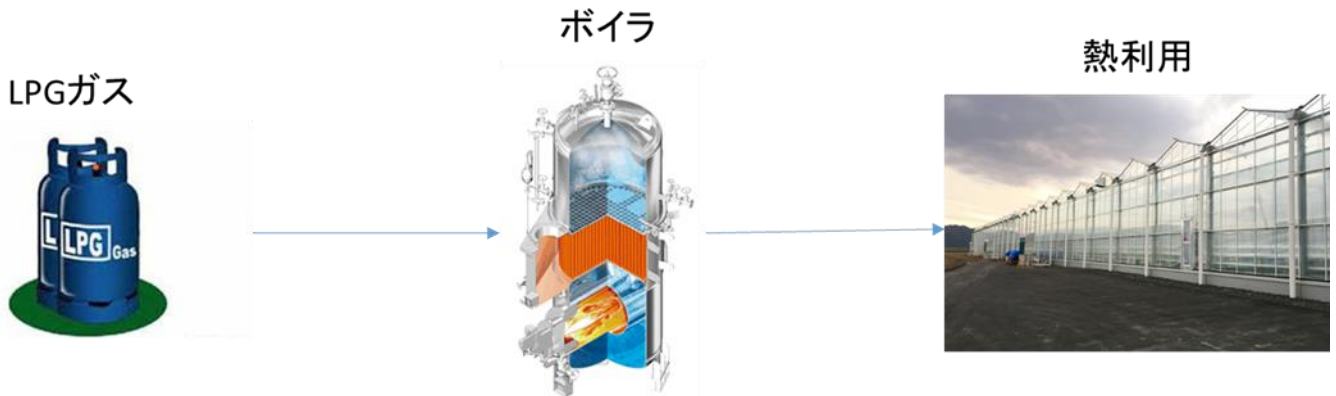
2 プロジェクト概要

2.1 プロジェクトの目的及び概要

プロジェクト名	ビニールハウスにおける木質バイオマスボイラー利用による化石燃料の代替	
目的	木質バイオマスボイラーを導入し、ビニールハウス（温室）の熱源とする。本設備の導入により、大幅な省エネルギー化を実現するとともに、再生可能なエネルギーを使用したトマトとパプリカの一貫生産を行う。	
概要（削減方法）	木質バイオマスボイラーの新設	
プロジェクト実施場所	実施事業所名	デ・リーフデ北上
	住所	宮城県石巻市北上町橋浦 北釜谷崎 226

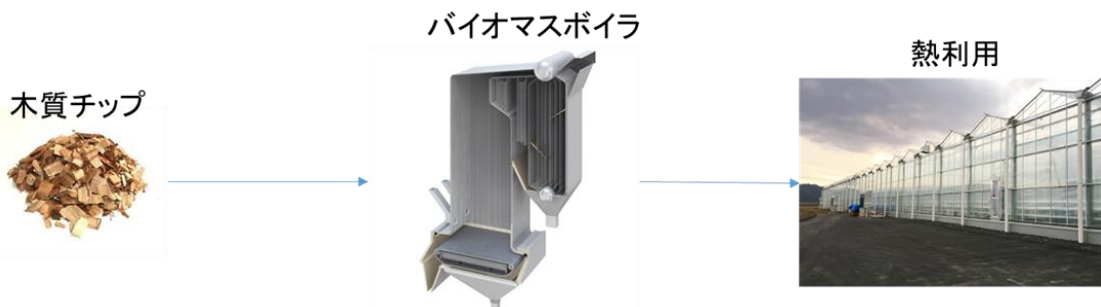
2.2 プロジェクト実施前後の状況

(プロジェクト実施前の概要図※1) : ベースラインとして設定した標準的な設備の情報



※1 詳細な設備情報は別紙（A.1）に記載すること。ただし、設備の種別、台数、燃料、出力等の情報は図中に記載すること（具体的な記載範囲は記載例参照）。また、新設プロジェクト又は国内クレジット制度若しくはオフセット・クレジット（J-VER）制度から移行したプロジェクトの場合にはベースラインとして設定した標準的な設備の情報を記載すること。

(プロジェクト実施後の概要図 ※2) :



※2 詳細な設備情報は別紙（A.1）に記載すること。ただし、設備の種別、台数、燃料、出力等の情報は図中に記載すること（具体的な記載範囲は記載例参照）。

2.3 プロジェクト要件への適合

プロジェクトの実施日 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト登録申請日の2年前の日以降に実施されたプロジェクトである <input type="checkbox"/> 2008年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認又はオフセット・クレジット(J-VER)制度におけるプロジェクト登録を受けている ※2
追加性	<input checked="" type="checkbox"/> 追加性を有している ※3

※1 「プロジェクトの実施日」とは、温室効果ガス排出量の削減をもたらす活動が実質的に開始された日を意味する（例えば、設備の導入を伴うプロジェクトの場合、設備が最初に稼働した日とする）。

※2 国内クレジット制度又はオフセット・クレジット（J-VER）制度から移行したプロジェクトについては、「プロジェクト登録申請日の2年前の日以降に実施されたプロジェクト」という要件を満たしている必要はない。ただし、標準的な設備をベースラインとして設定する必要がある。

※3 追加性評価に関する詳細情報は別紙（A.2）に示すこと。方法論の7. 付記において、追加性の評価が不要とされているもの（ポジティブリスト）については、別紙（A.2）の記入は不要。

3 方法論

3.1 適用方法論

適用する方法論	方法論番号	EN-R-001 ver. 1.4
	方法論名称	バイオマス固形燃料（木質バイオマスによる化石燃料又は系統電力の代替）
更新／新設 ※1	<input type="checkbox"/> 更新プロジェクト <input checked="" type="checkbox"/> 新設プロジェクト	

※1 ベースラインとして標準的な設備を設定する場合、「新設プロジェクト」となる。

3.2 方法論の適用条件への適合 ※1

条件 1	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	説明 一般的には化石燃料が使用される加温機でバイオマス固形燃料（木質チップ）を使用するため、条件 1 を満たす。
条件 2	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	説明 対象設備にて生産された熱は全て自家消費され、外部には供給されないため条件 2 を満たす。
条件 3	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	説明 バイオマス固形燃料の原料は、全て県内で伐採された未利用の間伐材を利用しており、伐採に当たって法令に従い適切に手続きが行われた木材であるため条件 3 を満たす。
条件 4	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	説明 対象設備は家庭用暖房でないため該当しない。
条件 5	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	説明 当該プロジェクトは化石燃料からバイオマス固形燃料への転換によって CO2 排出量が削減されるため、設備のエネルギー効率に関する条件は満たす必要はない。 なお設備で利用する熱は全て自家消費しているため、条件 5 を満たす。

※1 記載内容に関する根拠資料や関連情報等について、妥当性確認機関からの要求に応じて情報提供を行うこと。

3.3 モニタリング・算定方法

ベースライン排出量 ※1				
主要／付随的	排出活動	温室効果ガスの種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	対象設備の使用	CO2	－	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う

プロジェクト実施後排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	対象設備の使用	CO2	0%	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
付随的	バイオマス原料の運 搬	CO2	2.9%	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する
付随的	バイオマス固形燃料 化処理設備の使用	CO2	14.9%	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する
付随的	バイオマス燃料の運 搬	CO2	3.9%	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する
付随的	対象設備に付帯する 追加設備	CO2	25.5%	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する

※1 各排出活動の排出量算定方法及び影響度の算定方法については別紙（A.3）に記載すること。

※2 モニタリング方法については別紙（A.4）に記載すること。

4 排出削減計画

認証対象期間 ※1	2018年4月1日 ～ 2026年3月31日（8年0ヶ月）					
排出削減計画 ※2	年度	ベースライン排出量		プロジェクト実施後排出量		排出削減量
	2013年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2014年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2015年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2016年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2017年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2018年度	368.4	t-CO2	117.9	t-CO2	250 t-CO2
	2019年度	368.4	t-CO2	117.9	t-CO2	250 t-CO2
	2020年度	368.4	t-CO2	117.9	t-CO2	250 t-CO2
	2021年度	368.4	t-CO2	117.9	t-CO2	250 t-CO2
	2022年度	368.4	t-CO2	117.9	t-CO2	250 t-CO2
	2023年度	368.4	t-CO2	117.9	t-CO2	250 t-CO2
	2024年度	368.4	t-CO2	117.9	t-CO2	250 t-CO2
	2025年度	368.4	t-CO2	117.9	t-CO2	250 t-CO2
	2026年度		t-CO2		t-CO2	t-CO2
	2027年度		t-CO2		t-CO2	t-CO2
	2028年度		t-CO2		t-CO2	t-CO2
	2029年度		t-CO2		t-CO2	t-CO2
	2030年度		t-CO2		t-CO2	t-CO2
	合計	2,947.2	t-CO2	943.2	t-CO2	2,000 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input type="checkbox"/> 電力の CO2 排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由（以下に記載すること）					

※1 認証対象期間は、プロジェクト登録の申請予定日若しくはモニタリングが可能となる予定日のいずれか遅い日から、同日より8年を経過する日若しくは2031年3月31日のいずれか早い日までで設定すること。

※2 排出削減量の算定方法については、別紙 A.3 に記載すること。

5 データ管理

データの品質を確保するための仕組みとして、データ収集・集計等体制の整備と個別データの信頼性の向上について以下に記載する。詳細については、J-クレジット制度実施規程（プロジェクト実施者向け）「2.4」を参照のこと。

5.1 モニタリング体制

データ管理責任者 ※1	デ・リーフデ北上 総務部 部長
モニタリング担当者 ※1	デ・リーフデ北上 総務部 社員

※1 担当者の組織、役職名を記載すること（個人名は不要）。原則として、それぞれ別の担当者をおくこと。

5.2 モニタリングデータの収集・記録・保管

モニタリングデータの収集・記録・保管の手続 ※1	<ul style="list-style-type: none">・プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の購買伝票により使用量を把握し集計表に記録・木質チップ供給会社との取引明細（取引量、単位発熱量及び含水率等）を保管する。・プロジェクト実施前後のボイラー設備の仕様書を保管する。
データ保存期間 ※2	認証対象期間終了後__2__年間

※1 認証対象期間において複数の担当者がモニタリングを行う場合には、全ての担当者が適切にモニタリングデータの収集・記録・管理を行うための仕組みも併せて記載すること。

※2 原則認証対象期間終了後2年間とする。

6 特記事項

6.1 排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクの特定について ※1

排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクがあるか

有 無

※1 プロジェクト排出量が増加し、ベースライン排出量を上回る可能性のあるリスクも含む。リスクの例は、記載例を参照

(「有」にチェックした場合に記入)

項目	概要
リスク要因	

6.2 ダブルカウントの防止措置について

類似制度へプロジェクトを登録しているか。

登録している

(類似制度名： _____)

類似制度での認証予定期間： _____)

登録していない

6.3 法令等の義務の有無について

プロジェクトの実施は、法令等の義務履行によるものではないか。

法令等の義務履行によるものではない。

法令等の義務履行によるものである。